

青森県農会報43号

誌名	青森縣農會報
ISSN	
著者名	
発行元	青森縣農會 (青森縣廳内)
巻/号	43号
巻号補足	
掲載ページ	p. 1-27
発行年月	1915年8月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



新購讀者芳名録

中津輕郡千年村松木平	永井 多作
上北郡藤坂村六日町	苦米地豊三郎
三戸郡斗川村	田 中 實
上北郡三本木町	中野慶次郎
南津輕郡六郷村赤坂	宇野律五郎
三戸郡名久井村上名久井	中村 熊壽
東津輕郡油川村	三上重郎兵衛
上北郡法興澤村奥瀬	伊藤 以和雄

購讀者紹介

南津輕郡書記工藤清海氏は一名上北郡農會幹事小等原堅藏氏は一名三戸郡三戸町大久保政経氏は一名の本誌新購讀者を紹介せられたり深く其厚意を謝す。



かまやぼり大日本人造肥料株式會社

青森縣西部特約店

精過燐酸 水田肥料 各作物適合拾貳種

骨粉 水田燐酸 完全人若肥料

りんご肥料 三種

●丈夫なる芽を作り準備共に硬く強健に生育し果實の色澤香味共に佳良理想の効果を待た果實の貯蔵に耐ゆること果樹の發育の良きことは保つる諸さ少なく肥効濃厚なれば肥旋に手間入らず本縣に適するやう配合したれば効果確實輕便にして經濟なれば到る處賞賛さる

病虫害驅除を兼たる

空氣より電力採收の

石灰窒素

手

窒素肥料

●苗代ミミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく賞賛する處りこ益明さる

●粉作や加作へ使用され其肥効力は其一纏て下肥の五割に優りたり

●石灰窒素は窒素肥料として有効にして割安毒驅除は即マケ分

●東京、鹿保家商店海外輸入肥料特約

●深洲肥料、硫酸アンモニア、硝石、大豆粕、硫酸加里、血粉、

●肉骨粉、石灰、その他各種

●農作物を三割 鹽化マンガン

●以上増收せしむる補助肥料

●撰種、豆腐、製造用、固形、鹽、ニガリ、安價、

●酸性土壌改良用、粉狀、鹽、ニガリ、安價、

●肥料溜大桶代用タダキかめ製造用、石灰

●農産種子、病虫害驅除藥

●毒物劑物免許商

●町田新吉商店

●支店 弘前市新寺町

●本店 市元寺町

●支店 榎木座小路

●販路 ●東京二二三八〇番

青森縣農會報

大正四年八月二十日發行

第四十三號



青森縣農會發元

青森縣農會報第四十三號目次

●資料

○本縣の人口と産業……………(一)

●農藝

○果樹餘談……………技師 米山 弘(三)

○大豆の品種選擇に就て(三) 青森縣立農事 大友 遙(五)

○青森縣の害蟲(承前)……………同 西谷順一郎(六)

○除蟲菊の作り方(五)……………(八)

●雜纂

○南部大豆に就て(二)……………澤口 生(一一)

○本縣の園藝加工品……………(一三)

○青年團と農業……………(一三)

●農界時報

○道府縣農會長會議……………(一四)

○農政研究會評議員會……………(一五)

○技術員講習會……………(一五)

○勸業主任及技術員協議會……………(二六)

●本會記事

○臨時總會……………(二七)

○評議員會……………(二七)

○副會長選任……………(二七)

○基本財産蓄積規程中改正……………(二八)

○岡本牧犬氏の訃……………(二八)

○名譽會員推薦……………(二八)

○技術員の出張……………(二八)

○大正三年度經費收支決算……………(二八)

●郡市農會記事

○役員異動……………(二二)

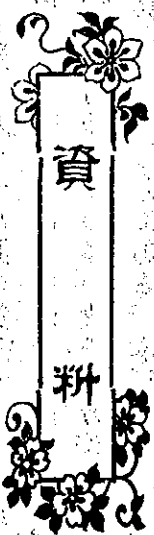
○三戸郡の畑作獎勵……………(二二)

○西洋輕郡の立毛品評會……………(二二)

●農況

○各郡の農況……………(二二)

青森縣農會報 第四十三號



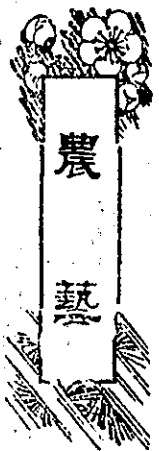
本縣の人口と産業

本縣は地勢上文化の度や富の程度が著しく劣つて居るとはよく人の云ふ事であるが一體どれ位遅れて
 どれ位劣つて居るのか、今大正元年の統計を本として比較して見ると大體次の様なもので中には思ひ
 半ばに過ぎるものも少くない。

先づ面積から調べて見ると本縣は六百三十六方里で全國でも第八位に位して居るから大きい方の部で
 あるが、住人口は七十四萬餘で第三十三位戸數は十萬七千許りで第四十二位である、之を一方里即
 ち一里四方の廣さに割り當てれば戸數は百六十八戸で第四十五位、人口は千百六十六人で第四十三位
 である、由來人口の稠密な所程文化が進み且つ一般に富裕なものである、其點から言へば全國四十七
 道府縣中四十三位や四十五位に位する本縣は文化の度も富の度も最も劣等な譯である、人口の密度に
 於て本縣より下位にあるは宮崎鳥取巖手北海道で戸數から言へば巖手と北海道だけである、だゞ茲に

意を強ふべきは人口の増加率で明治四十一年に比べて五年後の大正元年には百人に就き六人一分の増加を示して居る、全國では第八位である、一般に人口の増加する原因は繁殖力の旺盛な事と移住者の多い事とであるが第一位より第七位までの兵庫北海道大阪神奈川長崎福岡京都等は一は港灣地や大都市の異常なる移住の膨脹で一は北海道の如き農民の移住であると思ふ、即ち眞の繁殖の方面よりの増加は本縣が第一で宮崎鹿児島栃木秋田群馬静岡の順序である、人口の繁殖力の盛な國は強いといふ、此點だけは本縣人も中々偉いといふべきである、然りながら翻て産業上の生産を見れば年總額僅々三千五百萬圓足らず四十七府縣の第四十五位といふ憐れむべき體たらくである、之を一戸當にして見れば一年三百二十五圓第四十位に、更に一人當に計算すれば四十六圓八十八錢の少額で矢張り第四十五位である、是れでは逆も頭が擧がらぬ譯である。

今試みに此の産額三千五百萬圓を農産、畜産、林産、水産、礦産、工産等に分けて見れば畜産が比較的上位で百八萬圓の第十九位、次は水産の二百五十八萬圓の第二十二位、次は礦産の四十六萬圓第二十三位であるが此邊までは先づどうやら他府縣の仲間入も出来るが工産の六百十萬圓第四十五位が問題にならぬとしても林業百九十一萬圓の第三十八位、更に本縣の主業たる農産の二千二百萬圓第四十一位にあるが是は御料林や國有林などの多い故でもあらうから先づ仕方ないとしても農産の第四十一位にあるなどは五十萬の農民顔色なしである、本縣は土地が潤い、開墾すれば田も畑もまだ、増す事が出来る、栽培法を改良すれば二割や三割の増収は敢て難事ではない、人口の増殖力で海内に冠たる本縣は農産に於ては全國で最劣等である、切に本縣人特に農家の發奮を要望する。



果樹餘談

技師 米山 弘

袋掛に就て 方法とか材料とかに就ては季節が既に遅れて居るから来るべき適當の折を俟つて調査したものに記載する事にする、茲には單に袋掛の結果とも云ふべき一二を記して見る。

袋掛を行へば如何なる結果を來たすであらうかは、外觀上の事に關しては今更述べる必要もない即ち病蟲害を蒙らずして完全に生育するとか、又は色澤の點に於て整一になるとか云ふ如き事であるが、果實の風味に關しては如何なる影響があるであらうか、又袋掛をして色澤をよくするには何時頃取つたのがよからうか、と云ふ事に就ては、

實地家に於ては夫々經驗もある事であらうが、實驗の結果を發表したものは甚だ稀れである、今迄發表されたものによると林檎に關しては收穫豫想期の二週間以前に袋を取りたるものが、一番色澤がよく表はれて美觀を呈したと云ふ、又木田學士の實驗によれば單に色澤を美しくしたのみならず、果汁の中に糖分の増加を來たし、従つて風味が一般によくつたと云ふ、即ち袋掛によつて完全に果實が生長した結果、色付もよく風味もよくなつたのである、一體果實とか蔬菜とかの價格に高低を生ずる主なる原因は品質、整一、新鮮、完全等であるが、之等の中品質は最も重く見らるゝものであつて、殊に果實に對する趣味が増して來るに従つて益重要視せらるゝものであるから、袋掛に就ても單に病蟲害の豫防の爲めと云ふのみでなく、品質の方にも氣を入れて研究する事が必要であらう。

近來果實の需要が多くなるに従つて、需要者側は食卓上の裝飾的意味にも用ゐる様になつた、即ち

果實に一種のあつさりした模様とか、或は祝意なご表はす文字を表はして用ゐる場合がある、本縣でも多少やらるゝ方もあるけれど、之等は袋を去る頃に需要者側からの特別註文でなければ行はれないのである、然し豫定した事柄に用ゐる爲めには趣味のあるものである、之を行ふには紅色、帶黃紅色等の品種がよい様である、先づ袋を取ると同時に果面に適當の形を墨汁で書き收穫後水で洗ひ落すのである。

收穫の注意 總て果樹は連年結果すべき性質のものであるが、其收穫方法が不完全であると、翌年の結果枝とか又は花芽を傷けて、爲に生産に影響を及ぼす事がある、殊に日本梨の様に所謂短果枝群をなして居るものに多い、收穫法は先づ果實の付き工合と、花芽の出來工合とを考へて行はなければならぬ、桃に就て云へば桃は新しき枝に花芽を生じて、一度結果した枝には花は着かないのであるから、如何なる收穫法をなしてもよさそうであるが、それでは果梗が取れて腐敗が早く來る

恐れがある、桃は實を持つて上の方に引き上げて取る方がよい様である、林檎、梨は果實の直ぐ下の方にある芽が發達して、翌年の花芽となる性質があるから、亂暴に採取する時は時々葉の着いた部分迄取り去る事があるから注意せなくてはならぬ、林檎、梨に於ては果梗の部は少しく下方に曲り居るを常として居る、故に採集の當時此の屈曲せると反對の方向に、果實を少し持ち上ぐる様にすると時は、容易に且つ完全に收穫する事が出来る決して捻ぢ切るが如き事をしてはならぬ、然れども一々澤山のもの丁寧に取る事は、出來れば結構であるが中々困難であるから、出來得る丈け採集に注意して以上の心持を以て採集する様にさせるのが肝要であると思ふ。(七月六日)

大豆の品種選擇に就て(三)

青森縣立農事試驗場

大友遙

之れに依つて見れば、我國の産額にては到底其需要を充すことの出來ないのは火を見るよりも明である、故に其需要を充たす爲に年々主に支那から明治三十年以來大正二年迄平均約百二十萬石(價額約六百八十萬圓)の輸入し居るの現況である、今参考の爲め、明治三十年から大正二年迄の輸入數量及價額を示せば次の如くである。

年次	輸入數量	價額
明治三十年	三、三三、四三	五、四〇、八八
同三十二年	三、七六、六六	六、五二、〇六
同三十三年	一、七五、〇三	四、四二、〇九
同三十四年	一、八三、六八	五、七三、三〇
同三十五年	一、八二、三三	四、九六、〇九
同三十六年	二、二二、八〇	六、三六、〇一

同三十七年	二、二〇、七五	七、二六、二六
同三十八年	二、八六、五五	九、八三、三六
同三十九年	二、七三、三九	九、〇一、七三
同四十年	二、六五、四六	九、六四、三三
同四十一年	三、三〇、四八	一〇、九三、六一
同四十二年	三、三三、七七	一〇、四六、四八
同四十三年	三、三三、五七	八、九七、七三
同四十四年	二、六四、〇〇	一〇、〇〇、三六
大正元年	二、二〇、〇七	八、七〇、七一
同二年	一、七六、五八	七、一八、三三
平均	二、四三、〇一	七、七二、三三

又大豆精肥料として、明治四十一年から大正元年迄に年々平均約二千二百萬圓餘の輸入せられ居るの状況である即ち次の如くである。

年次	輸入數量	價額
明治四十一年	七、七〇、七六	三、七四、九二
同四十二年	九、六三、〇三	三、七〇、三九
同四十三年	六、八四、七二	一、〇〇、〇三
同四十四年	九、七三、六九	一、五三、七九
大正元年	八、四四、三三	三、三三、七六
平均	八、四六、〇三	三、九二、〇三

前述の大豆平均輸入額と大豆精平均輸入額とを合計すれば毎年約三千万圓の輸入額となるのである、即ち本縣の明治四十三年度の總生産額は約二千九百萬圓(内農業生産額約千九百八十三萬圓)であるが實に夫れよりも多いのである、今大豆一石九圓と假定して、石數に換算する時は、約三百三十一萬石となる、之を本縣の大豆生産額に比するに、約四十倍、我國の産額一箇年丈に相當するので、實に莫大なるものと云はざるを得ない。

今此の輸入を全部防遏する爲めには、我國に於て現今よりも倍の増收を圖らねばならぬのであるが其倍の收穫をあぐることは、容易に行ふことは出來ないかも知れぬ、併かし其一割内外倍の増收を得ることは、當業者各人の注意如何に依つては出來ようと思ふ、殊に本縣に於ける大豆の收量は一般に少なきを以て、二割位の増收を得ることは然まで困難のことではなからうと思はる、尤も其の方法手段としては、種々あるべきも、先づ差當り、其根本たる良品種を選択して、栽培することは、

最も捷徑のことと信するが故に、當場に於て明治三十三年以來品種試験施行の結果良種と予の認むべきものを、だんくに述べて参考に供しよう。

青森縣の害蟲 (承前)

青森縣立農事試験場

西谷順一郎

(4) パリスグリソ 本劑は種々の藥劑を混合して製するものであるが、現今では、パリスグリソとして製造せるものを販賣して居る、效力に於ては前三者と大差はないのであるが、前三者に比較すれば多く使用されて居らぬ様である、而して、使用の方法及び分量は前二者と同様にして宜しい、本劑も又石灰と混合して使用されることがあるので其法は(ハ)と同様である。

其他毒劑にはロンドンパーブルと稱するものもあるが、他の毒劑の様に使用されぬから之を略す。

毒劑としては右のやうなものであるが、この内で比較的輕便で價が安く且つ結果の著しいのは、亞砒酸及び亞砒酸鉛である、而して亞砒酸鉛は亞砒酸より稍や葉を害することが強い様である、亞砒酸曹達、パリスグリソ等が之に亞ぐ、右の内、ポルドー液に加へられたものは主として馬鈴薯に有效で石灰硫黄合劑に加へられたものは主として果樹類に使用される、其他此等の毒劑は接觸劑に混合されることもあるが、其效果は判然せない。

毒劑を取扱ふ時の注意 一、毒劑は總ての動物に對して甚だしき毒性を有するを以て、食物の附近に置く事は絶対に避けなければならぬ、一、毒劑の内にて金屬器を腐蝕せしむるものもあれば、是等毒劑を撒布せる吹霧器の様なもの使用終らば速かに洗滌せねばならぬ、一、毒劑に觸れた時は必ず手を洗はねばならぬ。

(5) 硫酸銅 本劑は毒劑ではあるが前各種の毒劑と多少趣が異て居る寧ろ殺菌劑の方であるから、害蟲に對しては一種の忌避劑となるのである即ち

本劑を加へた藥液を撒布すれば、葉等を食する害蟲が寄りつかぬと云ふのである、本劑は單用される場合は少なく多く他の藥劑を加へ合劑にして使用される、其の主なるものはポルドー液である。

(一)ポルドー液 本合劑は主として馬鈴薯のオホテントムシダマシ(ヨメコ)の食害を避くる爲めに使用される、即ち本劑を撒布すれば、遠方の内は、オホテントムシダマシが発生せぬのである、本劑に又前に記した様な毒劑を混入して使用しても差支へない、又毒劑を混入せざる時は其の效力は僅かに劣るのであるが、混入せんでも差支へがない(是の事に就ては本縣農事試験場害蟲報告に詳記してある)、其の製法は、

硫酸銅百二十匁、生石灰百二十匁、水一斗乃至四斗(水の量により一斗式或は四斗式等と稱へられて居る)、之れを製するには、先づ一つの桶に、硫酸銅を入れ、之れに定量の半分の水を加へて、溶解させるこの時は、硫酸

銅を袋の様なものに入れて、水中に吊して置けば宜しい、次に別の桶に、生石灰を入れ、残つた水をとり、之れを少しづつ入れて石灰の發熱し、後ち全く溶解した頃残り半量の水を加へるのである、而して此の液の全く、冷却せらる後ち他の一個の桶に、硫酸銅を溶した水と共に入れて混合せしむるのである、而して後ち此の液が全く中性であつたならば（之を鑑定するには光つて居る小刀を入れて見れば、銅の附着せるものは、酸性強きが故に、此の時は生石灰を溶して加ふ、又青色の試験紙を入れて見て、赤く變化せなければ、其れでよいのである）撒布して差支へない。

此の液は、苹果では餘り多く使用されないが、主として馬鈴薯に多く使用される、而して馬鈴薯に撒布するには、普通三斗式か、四斗式がよい。

其の他硫酸銅にアンモニヤ液を加へたものや、また硫酸の代りに硫酸鐵を用ひるものもあるが、害

蟲豫防劑としては多く使用されぬから略す。附言、近頃粉末ボルドー液と稱して粉末になつたものを販賣して居るが、其の效力の如何は斷言は出来ないが、此の粉末が水に、直ぐ溶解せぬ缺點がある、併し長く使用して見れば、意外な効果があるかも知れん、今後經驗し次第報することにする。

除蟲菊の作り方(五)

(和歌山縣に於ける)

收支計算

除蟲菊の收支は栽培法の如何、地勢並に土地の寒暖、植付後の年數其他種々の事情によつて一定せないが今一、二栽培家の調査したものを擧げることの傍である、但し大正三年十二月筒井技手の調査せられたものである。

第一例(和歌山縣有田郡宮原村)

一金六十八圓七十五錢 一段歩收入

内 譯

- 金六十五圓 生花百三十貫代一貫金五十錢
- 金三圓七十五錢 乾華百五十貫代一貫日金二錢五厘
- 一金四十六圓七十錢 一段歩支出
- 内 譯
- 金二十四圓 苗床二畝歩借入代一段歩支米七斗五升割
- 金五十錢 育苗間に對する肥料代
- 金五錢 上種子一合代一升金五十錢
- 金一圓四十錢 除草賃男一人 女三人
- 金一圓六十錢 移植費男二人 女二人
- 以上育苗費
- 金十圓 本田一段歩借入代
- 金二圓 牛耕賃
- 金一圓六十錢 整地費男二人 女二人
- 金四圓三十錢 植付(定植)人夫賃男五人 女六人
- 金十圓 肥料代多木③印四十貫代 十貫(二畝)二圓五十錢
- 金一圓六十錢 施肥人夫賃男二人 女二人
- 金三圓四十錢 除草賃男二人 女八人
- 金二圓 中耕賃二回分一回男二人
- 金四圓五十五錢 摘花賃百三十貫分一貫日三錢五厘

金一圓十錢 華取除賃男二人 女二人

金五十錢 農具損料

以上本田費

純益金

備考

- 一 本表人夫賃の計算は男一人一日金五十錢、女一人一日金三十錢として計上す
- 二 乾花賣却計算なれば左の如し
- 數量 生花十貫のものは乾花二貫三百となる
- 價格 生花一貫五十錢に對し乾花一貫二圓五十錢
- 費用 乾花一貫に對し乾燥に要する費用二十五錢

第二例(有田郡保田村)

- (1) 大正元年九月十五日播種
 - 一金八十錢 精選種子四合代内二割廢失の見込
 - 一金三十錢 苗床整地及播種人夫賃
- (2) 同年十一月二十日移植此苗九千六百本
 - 一金四圓八十錢 移植地一畝十八歩(一坪二百本植) 此小作料三斗二升代(石十五圓替)
 - 一金二圓二十錢 移種人夫五人内男二人苗床整地(二人五十錢) 女三人移種(二人四十錢)
 - 一金三圓二十錢 除草及施肥人夫八人(一人四十錢)
 - 一金一圓五十錢 肥料若干代

計金十二圓八十錢 實費支出額

此生育苗八千六百四十本但移植後枯死遺失苗一割減苗一本に付
金一錢五厘 實價

參考

苗作收支決算

一金十七圓十八錢 苗八千六百四十本代一本二厘
(大正二年秋市價)

內金十二圓八十錢 實 費

差引金四圓四十八錢 純益金

(3) 大正二年十月二日十本地植付

一金十三圓五十錢 上田一段歩 此小作料麥一石五斗代
(二石九圓替)

一金二圓七十錢 田犁貸其牛耕に要する諸費

一金十圓五十錢 苗七千一本に付一厘五毛(實價)

一金一圓五十錢 整地人夫三人(一人五十錢)

一金三圓二十錢 植付人夫八人(二人四十錢)

一金二圓五十錢 中耕人夫五人(一人五十錢)

一金二圓四十錢 除草人夫六人(一人四十錢)

一金十五圓六十錢 多木肥料(印六俵代)一俵二圓六十錢
但三回既肥に要す

一金五圓二十錢 摘花人夫賃(一貫に付四錢)

一金一圓六十錢 殘莖整理人夫四人(一人四十錢)

計金五十八圓七十錢 實費支出額

(4) 大正二年五月收穫

一金七十一圓五十錢 生花一百三十貫代(一貫に付五十五錢)

一金三圓二十八錢 剩餘苗千六百四十本賣拂代
(二本に付二厘)

一金三圓六十錢 干莖百二十貫(一貫に付三錢)

計金七十八圓三十八錢 收入總額

參考

本作收支決算

一金七十八圓三十八錢 收入金

一金五十八圓七十錢 支出金

差引金十九圓六十八錢 利益金

(5) 干花製造

一金七十一圓五十錢 生花百三十貫代(一貫に付五十五錢)

一金十九圓五十錢 乾燥人夫賃其他雜費(生花一貫に付十五錢)

計金九十一圓 支出額

一金九十七圓五十錢 收入金總額

但此干花三十二貫五百匁(生花百貫匁に付二十五貫匁)
(造干花一貫に付金三圓替)

參考

干花製造收支決算

一金九十七圓五十錢 收入金

一金九十一圓 支出金

差引金六圓五十錢 利益金

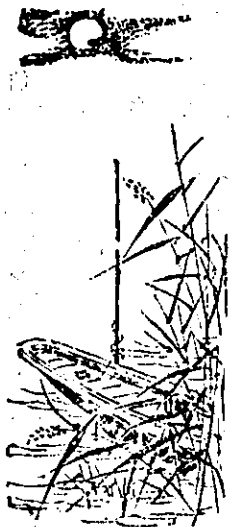
(6) 除蟲菊栽培總決算(一段歩作付)

種子播種より干花製造迄

收入總額一百四圓三十錢

支出總額八十圓五十錢

收支差引金二十三圓八十錢



●南部大豆に就て(二)

澤 口 生

土質と乾濕 粘質壤土、壤土、砂質壤土には生育最も良好にして收量多く品質亦佳良なり、塘土砂土等は收量概して少く品質不良なるを常とす乾濕は何れに偏するも宜しからず、比較的旱害に強く濕氣に抵抗する力弱し、即ち温暖にして乾燥なる年は收量多く品質佳良なれども低溫にして多濕の年は不作にして品質亦劣悪なり。

輪作の順序 大豆は甚しく連作を忌むものなれば必ず輪作法に依らざるべからず、輪作は年を隔てる程結果宜し、粟の後作に栽うれば莖の伸長佳良なれども收量品質共に良好ならず、蕎麥の後作としては莖の伸長不良なれども品質優良なり、稗

の後作は一般に良好なり、而して輪作の順序は地方によりやゝ異なるれども概して次の如し。

◎第一年 大豆 第二年 粟

◎第三年 蕎麥又は稗(收穫後)

◎第一年 麥(前年秋時) 後作大豆(時付け秋收穫す)

◎第二年 粟

◎第一年 麥(前年秋時) 大豆(前年秋時) 第二年 粟

◎第三年 稗 第四年 蕎麥(收穫後)

なほ地方によりては大豆と粟と交互に輪作し之を二回又は三回繰返したる後、即ち第五年目又は七年目に蕎麥を作り一二年後稗を蒔き次に大豆に歸る。

整地 整地は概ね下種當日又は其前日頃に行ふ、其法頗る粗放にして前作の畦間凹所に厩肥を敷き踏鋤にて高畦を兩側に糊き返して厩肥を被ひて新に高畦を作り鋤を以て畦形を齊へ整地を終る甚しきは前秋圃場に撒布し置ける厩肥を一畦に掻き集め焼きて後踏鋤を以て高畦を作り鋤にて打均らす者あり。

近年は犁にて翻起しハロー又はレーキ或は鋤を以て地均らしを行ひ平畦を作り施肥して播種の準備をなす、麥の間作とするものには整地の要なし。

肥料 麥の間作には肥料を用ひざるを普通とす近來過磷酸石灰を施用するものあり、古來厩肥を單用す、厩肥を用ふる場合には前述の如く前秋圃場に撒布し置き翌春掻き集めて焼くものと其儘働き込むものとあり何れも一段歩當二十畝乃至二十四五畝即ち四五百貫を用ふ、中には下肥のみを百貫位用ふるもの馬糞のみを百五六十貫單用するものあれども多くは厩肥單用とす、過磷酸石灰木灰等を併施するものあるを見るに至れるは極めて最近の事に屬す此場合には厩肥二百貫、過磷酸石灰五貫草木灰十貫内外とす、上北郡北部にては練肥と稱して中熟の厩肥に水を加へて能く踏練し磷酸肥料を混和して用ふるものあり。往昔人口疎にして土地餘りありし時代には野草を刈取り多く鶏とて堆積し置き翌年播種前に圃場に撒布して肥料となせるが故土地の生産力強大なりしも年と共に

此種肥料の不足を告げ漸次地力衰耗せり、而して大豆は根瘤菌により空氣中の窒素を攝取するが故に、窒素分の不足を訴ふること少なけれども磷酸加里分の不足を來すを常とす、磷酸加里の量少くして窒素多ければ莖葉のみ徒らに繁茂して登實極めて不良なり、南部地方に於ける在來の大豆の肥料は概して窒素多く磷酸加里一般に尠き感あり。

●本縣の園藝加工品

本縣に於ては園藝業未だ他府縣の如く發達せざるを以て之が加工品の如きも種類少く、僅に馬鈴薯澱粉、楓梓罐詰、食用干菊、干柿、葡萄酒、林檎酒、ブランドー等の數種に過ぎず隨て其産額の如きも甚だ多からず、今大正三年に於ける生産高の主なるものを擧ぐれば左の如し。

東津輕郡	數量	二五、〇〇〇斤	楓梓罐詰	食用干菊	食用葡萄酒
西津輕郡	價格	一〇、〇〇〇圓	同	同	同
中津輕郡	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同

●青年團と農業

西津輕郡孤樵力行團、森田村榮田同交會、柴田村實業會、森田村大館青年團、同上相野青年團に於ては何れも同郡農會技術員指導の下に試作田畑を經營しつゝあるが殊に創團以來數年を経成績顯著なるは力行團及同交會の二にして力行團に於ては田一町歩畑一段歩桑園一段歩を經營しつゝあり而して水田にありては、(一)肥料配合試驗 全區域を五區に分ち普通農家の實際使用しつゝある肥料

南津輕郡	同	七五、〇〇〇	同	同	同
北津輕郡	同	六五、〇〇〇	同	同	同
上北郡	同	九二、五〇〇	同	同	同
下北郡	同	七〇、〇〇〇	同	同	同
三月郡	同	一八、〇〇〇圓	同	同	同
弘前市	同	五、〇〇〇	同	同	同
青森市	同	八、七五〇	同	同	同
合計	同	一、〇〇〇、〇〇〇	同	同	同

の配合法を試験しつつあり、(二)三要素木框試験
(三)各団員の擔當試作 畑作に於ては葱頭、甘藍、
牛蒡、長芋等を植栽し、桑園は本年度新設にして
御大典記念事業として管理しつつあり、同交會に
於ても亦水田約五段歩畑少許の耕作を行ひ水稻に
關しては三要素試験及擔當試作をなしつつあり、
畑作物は主として葱頭の栽培をなし居れり。



農界時報

●道府縣農會會長會議

全國道府縣農會會長會議は帝國農會主催となり去七
月一日より三日間東京赤坂三會堂に開會左記諸問
題に就き熟議を遂げたりと。

農會會長協議會決議事項

- 第一 米價調節に關する應急策及永遠の政策如何
- 第二 自作農の減少を防止する方法及之れが増加を計る方法如何
- 第三 低利資金供給の方法如何
- 第四 市町村農會經費を滞納するものある場合に於て市町村農會
長の請求あるときは市町村税の例に依り之を處分することを得
る様農會法を改正することを帝國農會會長より其筋に建議し且つ
急速に之れが遂行を期すること
- 第五 市町村農會は會期の定むる所により會員の選舉したる評議
員を以て組織する評議員會を以て總會に代ふる事を得る様農會
令を改正することを帝國農會會長より其筋に建議し且つ急速に之
れが遂行を期すること
- 第六 御大典記念事業として各府縣農會協力し農産増殖の基礎を

確立するの件

- 第七 米價調節の爲日本勸業銀行をして米券倉庫を經營せしむる
こと
- 第八 地方産業に對する低利資金供給に關する件
- 第九 田畑に屬する畦畔は免租地として取扱ふことを法令に依り
確定せられ度事
- 第十 道府縣農會國庫補助増額の件
- 第十一 町村又は町村農會に於て技術員を設置する場合には其俸
給の幾分を國庫より補助せられんことを其筋に建議の件
- 第十二 米價調節に關し適當なる機關を設置せられんことを其筋
に建議の件
- 第十三 地租の納期を變更し田租の第一期を翌年一月とし順次繰
下げの件其筋に建議すること
- 第十四 農事功勞者に對し一層優遇の途を講ぜられんことを其筋
に建議するの件
- 第十五 地租軽減の目的を速に達すべく帝國農會に於て適當の方
法を講ずること
- 第十六 人肥値上協定に對し各府縣農會の態度協定の件

●農政研究會評議員會

本縣農政研究會にては七月十四日縣會議事堂に評
議員會を開催し大正三年度會務及決算報告の件を

承認し尙滿場一致を以て本縣知事小濱松次郎、内
務部長名尾良辰外理事官福永尊介、武士忠一郎、技
師大脇正諄、菅沼只三郎、松下莊作、横田利喜一、
遠藤邦之輔、西村實二、及縣立畜産學校長芳賀敬
治並に貴族院議員宇野清左衛門、衆議院議員加藤
宇兵衛、野村治三郎、高杉金作、菊池良一、菊池
武徳、大坂金助の諸氏を名譽會員に推薦せり。

●技術員講習會

七月二十二、二十四日の兩日三戸郡八戸町尋常小
學校内に本會主催の下に技術員講習會を開催せり
出席者は各郡市勸業主任郡市農會技術員外町村役
場員篤農者一般有志等百數十名にして盛會なり
き、講師及演題左の如し

- 麥作栽培法に就て 本縣立農事試驗 佐藤文郷
- 園藝に就て 本會 技師 米山弘
- 雜種と遺傳 本縣立農事試驗 中村 胖
- 果樹の病害に就て 同 上三浦道哉
- 本縣主要農作物の増進策 本縣技師 大脇正諄

●勸業主任及技術員協議會

七月二十三、三戸郡八戸尋常小學校内に郡市勸業主任及技術員協議會を開催せるが協議問題及出席者は左の如し。

△勸業主任及技術員協議會問題

一 協議事項 (本會提出)

- 一 坪刈法を一定するの件
- 二 金肥購入に對し技術員の注意すべき點如何
- 二 證問事項 (本會提出)
 - 一 畑作物の増收を圖る捷徑如何
 - 二 害蟲驅除を一層有效ならしむる方法如何
 - 三 郡市農會提出問題 (南津輕郡農會提出)
 - 一 農會の振はざる原因及之に處すべき適當なる方法如何
 - 二 農事上の統計資料を正確に求むべき最良の方法如何
 - 三 勞力の節減及收穫の増加を目的としたる最良の田畑耕作法及農具如何

四 苗代絲蚯蚓驅除豫防上最良の方法及實驗の成績如何

四 協議問題 (本縣提出)

- 一 産米検査施行の可否
 - 二 産米検査施行の場合に各町村に配置する技術員を農事改良上最も有効に活動せしむる方法
 - 三 穀蟲驅除獎勵に關する件
 - 四 糞工品生産組合設立の件
 - 五 米穀の乾燥を一層良好ならしむる方法
- △出席者
- 東郡 郡書記 須藤作次郎 技手 工藤 直巳
 - 後藤 鐵也 同 白鳥 芳三
 - 西郡 技手 宮本吉三郎 同 山谷熊五郎
 - 中郡 郡書記 工藤茂太郎 技手 對馬 忠郷
 - 南郡 郡書記 鈴木太平司 技手 高林所一郎
 - 技手 佐藤 健吉
 - 北郡 郡書記 岡本 建夫 技手 宇井 清
 - 上北郡 郡書記 新館 眞 技手 石井 莞爾



本會記事

●臨時總會

七月十四日縣會議事堂に於て大正三年度決算報告及基本財産蓄積保管規程改正の件並に副會長補缺選舉の件大正四年度豫算變更の件及御大典記念事業並に大正五年度事業の件に就き臨時總會を開催せり出席議員左の如し

- (東) 櫻田 文吉 (西) 長谷川 清繁
- (中) 小杉 佐吉 (南) 今村 仁右衛門
- (北) 唐牛 多市 (上北) 吉田 和太郎
- (下北) 山本 八三郎 (三月) 大久保 政經
- (弘前) 千田 勝次郎 (青森) 高田 興吉
- (特別議員) 阿部 武智雄 菊池 幸次郎

●評議員會

七月十二、十三の兩日會計検査の件其他に就き長谷川、今井、吉田三評議員出席評議員會を開催せり。

●副會長選任

- 同 佐々木精一郎 同 中野渡喜代美
- 七戸町農會技手 田中忠則
- 下北郡 郡書記 四戸 文海 技手 櫻田三次郎
- 三戸郡 郡書記 小田相千歳 同 大島 涉
- 同 久保 操 技手 高松三右衛門
- 技手 漆澤 勉一 同 佐藤四郎兵衛
- 同 蔭山 武平 書記 山本庄四郎
- 弘前市 市書記 竹田 繁雄
- 青森市 市書記 小林 壽郎
- 其他本縣農林課長大脇正諄、技手青柳兵次郎、同
- 奥崎慶吉、縣立農事試驗場技手三浦道哉、本縣輸
- 出米検査所監督員佐野忠治、本會技手米山弘、技
- 手澤口士郎、書記工藤清次郎



七月十四日臨時總會に於て本縣内務部長名尾良辰氏を本會副會長に選舉せり。

●基本財産蓄積規程中改正

臨時總會の決議を以て本會基本財産蓄積規程第一條より「繰越金の幾分」印刷物配付代一を削除せり。

●岡山牧夫氏の訃

上北郡農會選出本會豫備議員岡山牧夫氏は地方の名望家にして多年産業の振興に盡瘁し來りたるが五月二十九日病を以て逝かる洵に哀悼の至に堪へず。

●名譽會員推薦

本會臨時總會に於て本縣内務部長名尾良辰氏産業課長武士忠一郎氏を本會名譽會員に推薦せり。

●技術員の出張

用件 出張先 期 日 氏 名
農家經濟調査 東、南、北、上 自五月三十日 七日間 技手 澤口士郎
模範畑指導 北、三戸郡 至六月五日
小作米品評會 西津郡 自七月四日 二日間 技師 米山 弘
授與式 西津郡 至同 五日
技術員講習會 八戸町 自七月三十一日 四日間 同
及協議會 至同 二十四日

同 上 同 自七月三十一日 五日間 技手 澤口士郎
同 上 同 至同 二十五日
同 上 同 自七月二十六日 十日間 書記 工藤清次郎
模範畑指導 東、西、中、南 至八月四日
北津郡 至八月四日 十日間 技師 米山 弘

●青森縣農會經費收入決算書 (大正三年度)

科	目	決算額	豫算額	比較増減 (△)減
第一款 會	郡市農會負擔	4,566,433	4,566,433	—
第一目	東津輕郡農會負擔金	470,400	470,400	—
第二目	西津輕郡農會負擔金	433,800	433,800	—
第三目	中津輕郡農會負擔金	466,800	466,800	—
第四目	南津輕郡農會負擔金	333,700	333,700	—
第五目	北津輕郡農會負擔金	577,800	577,800	—
第六目	同上	422,900	422,900	—
第七目	同上	68,000	68,000	—
第八目	三戸郡農會負擔金	470,300	470,300	—
第九目	青森市農會負擔金	255,300	255,300	—

科	目	決算額	豫算額	比較増減 (△)減
第十目	弘前市農會同上	351,500	351,500	—
第二款 補助	國庫補助	4,755,000	4,755,000	—
第一項	國庫補助	1,555,000	1,555,000	—
第二項	縣補助	3,200,000	3,200,000	—
第一目	縣補助	3,200,000	3,200,000	—
第三款 繰越	繰越金	49,800	49,800	—
第一項	繰越金	49,800	49,800	—
第四款 雜	收入	333,900	333,900	—
第一項	預金利息	333,900	333,900	—
第二目	會報費却代	100,000	100,000	—
第三目	農事講義費却代	50,000	50,000	—
第四目	用品費却代	50,000	50,000	—
第五目	農會報廣告掲載料	30,000	30,000	—
第六目	繰入金	30,000	30,000	—
合計		9,625,600	9,625,600	—

●青森縣農會經費支出決算書 (大正三年度)

科	目	決算額	豫算額	比較増減 (△)減
第一款 事務	事務所費	337,500	337,500	—
第一項	事務員俸給	120,000	120,000	—
第二項	書記俸給	120,000	120,000	—
第三項	手當	97,500	97,500	—
第四項	備品及消耗品費	60,000	60,000	—
第一目	圖書費	8,100	8,100	—
第二目	備品費	7,400	7,400	—
第三目	消耗品費	44,500	44,500	—
第四目	通信運搬費	5,000	5,000	—
第二目	印刷製本費	33,000	33,000	—
第三款 會議	會議費	357,000	357,000	—
第一項	議員旅費	257,000	257,000	—
第二項	評議員會費	50,000	50,000	—
第一目	評議員旅費	50,000	50,000	—
第三款 雜	雜費	2,620,000	2,620,000	—
第一目	雜費	2,620,000	2,620,000	—
合計		6,530,000	6,530,000	—

第一項 技術員俸給	1,130,000	1,130,000	
第一目 技術員俸給	430,000	430,000	
第二目 技術員旅費	300,000	300,000	
第一目 同	94,000	93,000	1,000
第二目 同	94,000	93,000	1,000
第三項 郡農會技術員講習會費	5,310	5,300	10
第一目 雜費	5,310	5,300	10
第四項 玉葱栽培獎勵費	33,750	33,600	150
第一目 種子購入費	100,000	100,000	
第二目 栽培法印刷費	8,000	8,000	
第三目 運搬費	350	350	
第四目 模範畑設置費	27,000	27,000	
第五項 種子配布費	30,000	30,000	
第一目 杞柳苗購入費	3,500	3,500	
第二目 運搬費	5,100	5,000	100
第三目 栽培法印刷費	3,000	3,000	
第六項 副業獎勵費	3,000	3,000	
第一目 原料購入費	3,000	3,000	
第七項 講習講話費	2,500	2,500	
第一目 教科書印刷費	1,000	1,000	
第二目 圖書標本費	1,500	1,500	
第三目 消耗品費	10,000	10,000	

第四日 運搬費	1,000	1,000	
第八項 農事獎勵費	7,700	7,700	
第一目 農會表彰費	30,000	30,000	
第二目 功勞者同上	500	500	
第三目 篤農者同上	7,000	7,000	
第四目 立毛品評會獎勵費	5,000	5,000	
第九項 會報費	3,610	3,600	10
第一目 印刷費	3,500	3,500	
第二目 配布費	100	100	
第十項 農家經濟調査費	8,000	8,000	
第一目 調査農家手當	8,000	8,000	
第二目 雜費	4,000	4,000	
第四款 補助費	5,500	5,500	
第一項 郡市農會補助費	4,500	4,500	
第一目 同	4,500	4,500	
第二項 町村農會補助	1,000	1,000	
第一目 同	500,000	500,000	
第二目 立毛品評會補助	500,000	500,000	
第三項 青森縣農政研究會補助	5,000	5,000	
第一目 同	5,000	5,000	
第五款 賃金	3,300	3,300	
第一項 帝國農會賃金	3,300	3,300	

第一日 同	33,000	33,000	
第六款 基本金	3,000	3,000	
第一項 基本金	3,000	3,000	
第一日 同	3,000	3,000	
第七款 賞與金	1,000	1,000	
第一項 賞與金	1,000	1,000	
第一日 同	1,000	1,000	
第八款 豫備金	1,000	1,000	
第一項 豫備金	1,000	1,000	
第一日 同	1,000	1,000	
合計	9,500	9,500	
總收入金九千六百五十四圓六十六錢四厘			
總支出金九千五百四十四圓八十三錢八厘			
差引殘金七十圓八十二錢六厘			

●財產目錄

大正四年三月三十一日現在

種別	數量	購入價格
書籍	八點	五、五〇〇
帳簿	二	五、〇〇〇
紙製器其他	六	五、〇〇〇
製圖用具其他雜品	三〇	六、〇〇〇
計	三三	三、三〇〇
外に 基本金八百九十九圓九十五錢		五、七九七

郡市農會記事



●役員異動

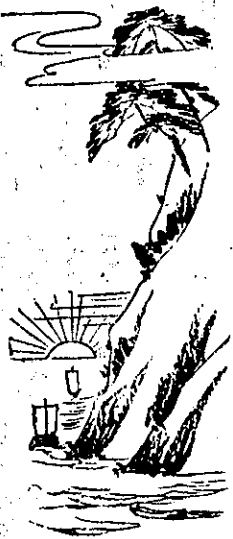
大正四年六月十九日 辭任 弘前市農會幹事 對馬 鈺藏
 同 七月十九日 就任 同 上 成田德之進

●三戸郡の畑作獎勵

三戸農會にては畑作の増收を圖らん爲め本年三段歩以上麥の改良蒔を行ひ耕起に犂を使用するか又は適當の方法を以て整地し條播したるものにして病蟲害少く管理宜しきを得一畝歩の收量多き者に就き技術員をして詳細に調査せしめ成績佳良なる者に對し一戸に付鍬一挺つゝを賞與すべし。なほ堆肥を製造する者にして成績良好なるものには鍬一挺備中鍬一挺つゝを賞與して良好なる堆肥の製造を獎勵しつゝありといふ。

●西津輕郡の立毛品評會

西津輕郡にて本年立毛品評會の施設をなすべき町
 村農會は大戸瀬、鳴澤、柴田、越水、森田、水元、
 柏、出精、稻垣、館岡の十箇村なり以上各村共に専
 業たる水稻に就き品評するは勿論なるも、大戸瀬
 鳴澤森田館岡に於ての水稻以外重要畑作物たる馬
 鈴薯莖葉大小豆等につきても行ふ豫定にて夫々準
 備を整へ苗代審査は六月初旬施行の豫定なり其他
 越水に於ては物産品評會、車力館岡に於ては堆肥
 品評會莖細工品評會及競技會等施設の計畫なり。



△西津輕郡（五月分）

◎本月中に於ける氣候は概して不順にして五月二
 日三日は早朝に於て強度なる晩霜に逢ひ苗代面に
 薄氷を認むるに至れり之を昨年比すれば四日間
 遅延せり爾後温度の變化甚しく高低相反覆して初
 旬に於ける平均温度と下旬に於けるものとの間に
 殆ど差異なし。

○氣温平均十二度六最高平均十五度二六最低平均五度三八にして
 之を昨年の本月に比すれば氣温は三度八最高四度二最低二度六五
 何れも低溫を見雨量は六十三耗一にして昨年に比した十四耗一
 少し。

◎氣象前述の如く不順にして氣温低かりしを以て
 稲苗の發育遅延として進まず農民の憂慮甚しく唯
 絲蚯蚓の被害比較的少なりしと且つ種子完全な
 りし爲め發芽歩合多きに依り苗不足を告げず、昨

年に於ては五月末既に插秧を見たりしに本年にあ

りては下旬にて最も長きものにありても漸く七寸
 を出でず普通三寸内外にして二寸以内のもの多
 あり之が爲め插秧期も優に十日以上遅延するを免
 れざるが如し、概して屏風山麓の地たる館岡車力
 越水の一部は優良なるも他の地方甚しく劣り中村
 赤石の或る部落に於ては初旬の霜害にて甚大なる
 被害を蒙りしものあり。

育種場本分場に於ては普通農家に比して遙に播種
 期早かりし結果其後の發育他より勝り殊に本會育
 種場稻垣分場に於ては最も優良なる成績を收め五
 月末日より插秧に着手したるは郡下に於ける初植
 なり。

○本郡主要作物たる馬鈴薯は海岸方面は概して早く五月中旬既に
 發芽し生育優良なり新田地方に於ても五月下旬に全部の發芽を見
 るに至り早きものありては追肥培土を行ひつゝあり大害蟲たる
 偽瓢蟲の發生極めて速かにして馬鈴薯の發芽と同時に既に發生食
 害しつゝあるを以て今後の被害更に憂慮に堪へざる所なり依りて
 郡に於ては昨年より一層の努力を以て數次に一齊驅除を行ふ豫定
 にして一方町村農會に於て兒童其他を利用して驅除害蟲買上の方



法を實行するものあり。

◎大小豆にありては五月中旬より播種し始め爾後
 發芽生育中にして特記すべき事なし、莖葉生育普
 通なりと雖も天候に支配せられし爲め昨年に比す
 れば稍收量劣れるが如し初旬より抽莖し始め下旬
 に於て開花中なり病害蟲の發生昨年比し少し蔬
 菜類中葱頭にありては發芽後の生育狀況極めて佳
 良なり其他の蔬菜類の發育亦普通なり。

○町村農會中育種場分場所所在地たる岩崎木造稻垣の三箇村農會に
 於ては獨立して試作田畑を経営し本會駐在技術員の指導の下に模
 範的試作をなし以て其地方の農民の指針となり居れり。

◎町村農會に於て篤農家に擔當せしめ本會技術員
 指導の下に試作田畑を設置し居れるは森田村十箇
 所、出精村八箇所柏村一箇所鳴澤村六箇所なり。

○偽瓢蟲買上をなせる村農會は左の九箇所なり大戸村瀬深浦舞月
 鳴澤森田柴田水元出精館岡其他視察員を派遣するもの四箇町村或
 は堆肥舎建設補助に或は講習講話に青年團獎勵等に十分の活動を
 なしつゝあり殊に出精村農會に於ては専任の技術員を置き専ら村
 内を巡回指導に力めしめつゝあり。

◎郡下各小學校中學校園の設置を計畫せるもの多

致にして其地方に於ける主要物産の栽培を爲し以て農事思想の養成を計りつゝあるも就中館岡村に於ては本年度より大字筒木坂に農業補習學校を併置し一段歩餘の實習地を設け本會技術員に囑託して指導實習をなさしめ一週二時間つゝ専門科の教授をも爲さしめ優良なる結果を收めつゝあり其他越水村下福原小學校越水小學校等に於ては頗る成績優良なり。

△上北郡 (五、六月分)

○五月には一般に冷氣を覺之爲に既に播下せし種籾も往々枯死腐敗し發芽生育の状態不良に陥り大いに注意を拂ひつゝありしが折柄本縣訓令を以て稲作上に關する注意を發せられたるを以て即時各町村駐在技手をして各部落に互り訓令の趣旨を傳達し普く農家に警告を與へたり。

○五月の上旬頃迄大半苗代の種時了したれども概して低温なりしを以て苗の生育思はしからざるものと豫想し例年に比し多少苗代段別を増加せしものも往々散見せり畑作中馬鈴薯は上旬頃以下種せり當時の天候より不作を臆測し耕作段別も亦平年に比し増加

計り本會よりは審査員として石井技手を派遣せり。

△六月初旬頃より天候回復し殊に入梅後に至りては著しく氣溫昇騰せし結果苗の伸長も從つて佳良に向ひ上旬頃より播秧に著手し下旬頃迄大半植付了する見込なり當初苗の不足を告ぐるこなきやと豫想せしが現状より推測するに多少播秧期を後るゝと雖も不足を來すことなからん畑作中秋蒔麥は上旬頃出穂開花し馬鈴薯大豆等に至りても發育良好なり蔬菜類中温床に播下せしものは中旬頃假植をなし其後の経過順調なり。

△天候の恢復と共に泥負蟲の發生を各所に見るに至りたるを以て之が豫防驅除に對しては各町村駐在技手をして應急の防止策を講せしめたり。

△蠶兒の掃立は全部六月三日迄に結了せり枚数は時局の影響を蒙り昨年比し約三百枚位減少せり掃立後の経過は良好にして蠶病の發生を見ず本會の經營に係る桑苗圃にては上旬頃撞木採中旬頃には金採伏方に著手し平年より約數日間後れたり桑葉の發育に關しては殆ど冷氣打撃し爲め發育思はしからざりしも本月に至り氣溫昇騰せしを以て發育迅速にして蠶齡も均衡を得るに至れり(以上六月分)

△中津輕郡 (六月分)

○稻は春來の氣候低溫なりし爲め稲苗の發育不良

の傾向を見るに至り其他粟及大豆等に至りても下旬頃迄に播付を結了せり期節は苗代を除き一般畑作は例年に後れし模様なし。

○例年苗代には絲蚯蚓泥負蟲等の發生被害ありて苗の生育上尠なからぬ阻害を來すを以て絲蚯蚓に對しては數年來之が豫防驅除法として石灰窒素の使用を極力勧誘獎勵の結果逐年其被害減少するを見るに至れり泥負蟲にありては氣候低溫の結果例年の如く發生被害を見ず。

○上旬頃迄は四月と同様桑園の肥培耕耘に従事し下旬頃より僅膏及掃立に著手せり之を平年に比するに約十日内外掃立期節を後れたれども其後の経過は順調にして致て例年と大差なし(以上五月分)

△六月に入りて農業技手をして普通農事及蠶業に關する講話を天間林村及白石村の兩村に於て開催せしが聴講者何れも三十名以上に達せり。

△農事改良機關として各町村に百有餘箇所の模範田畑を設置し各駐在技手をして實地に其範を示し指導誘掖の任に當らしめつゝあり。

△浦野館村農會にありては六月五日より三日間各部落に互り苗代立毛品評會を開催し斯業の改善を

なりしも本月上旬より天候恢復し近來稀なる高温となりしを以て發育一時に進み苗は軟弱なりし植付は早きは六月八日遅きものにありては六月二十三四日を以て終了せり。

○稻苗は本年は糸ミ、ズの被害多かりし爲め六月上旬迄は苗不足の模様にて早植を差控ゆるの状況にありしか其後天候恢復と共に苗の發育進歩したるが爲め却て剩餘を見るに至れり。

○縣郡設採種田にありては早きは六月十二日遅きものは六月二十三日を以て植付終了せり。

○畑作は一般に良好なり至葱は殊に昨年比し發育良好なり。

○養蠶は氣候不順の爲め掃立の季節遅れたりと雖も其後天候適順温度も非常に高まりたれば蠶兒の發育進み眠起の日数は例年より短し。

△下北郡 (六月分)

○麥作馬鈴薯作の手入本田播秧等に就き技術員に各町村を巡回指導せしめ稲作播秧期の促進並に馬鈴薯害蟲の共同驅除は特に注意を促せり。

○大間婦人會大畑農友團砂子又青年團は各經營せる畑作物の期節による手入をなせり。

○稻苗は五月下旬頃までは氣候寒冷の爲め發育伸

長共遅々として頗る憂慮に耐へざりしが其後天候
 順良と共に著しく發達を來し苗不足等の憂もなく
 縣設郡設採種田は十五日までに又各町村の模範田
 も十九日までに挿秧を了せり一般農家の挿秧は早
 きは十二三日よりにして東通大畑大湊等大體挿秧
 を終り田名部町部内は昨秋より御料地の新開約五
 十町歩増加せるにより用水等の爲め多少遅るゝな
 らんも既に五六分通り終了せり。

○麥作秋蒔は大抵納花し春蒔の早きは既に出穂を見れども一般の
 生育は良好ならざるが如し、馬鈴薯大豆粟種其他一般作物の状況
 は發育伸長共良好なり。

○例年に比し地方によりては馬鈴薯の害蟲發生多
 きが如くに就き一般に共同驅除を勵行せしめたり
 又大豆の害蟲も發生多きが如くなれば夫々注意を
 促せり。

○蠶兒の掃立は七日より十一日頃迄にして一二齡中の經過は頗る
 良好なり桑葉の發育は蠶兒に比し寧ろ進めるか如く豐良なり(六
 月二十三日)

△東津輕郡 (六月分)

○稻作、前月迄は氣候不良の爲め苗の發育著しく

し。

○養蠶は氣候適順なりし爲め發育進歩し本月末に至り四齡に達せ
 るもの多く一般に結果良好なり。

新購讀者芳名録

- | | |
|---------------|--------|
| 上北郡六戸村上吉田 | 圓子 龜五郎 |
| 下北郡佐井村 | 柳田 要太郎 |
| 弘前縣重兵第八大隊第一中隊 | 三上 豊作 |
| 南津輕郡野澤村吉野田 | 齋藤 健太郎 |
| 北津輕郡金木村川倉 | 泉谷 藏次郎 |



悪かりしが本月五六日頃より漸次温度高まり隨て
 發育恢復し長足の勢を以て伸長せり一方挿秧期節
 即ち本月八日頃よりは恰も梅雨の現象を呈し温度
 俄かに上昇し稻の挿秧に最も好適の氣候となれ
 り、夫れ故一般に挿秧を急ぎ早きは本月十二三日
 頃より挿秧を見るに至れりと雖も概して前年に比
 し十日以上遅れたり左れど挿秧中天候良好なりし
 を以て意外に抄取り本月末には殆ど挿秧を了はれ
 り而して挿秧後の結果は早きものは十二三日にし
 て色付き平年になき好況を呈しつつあり。

○如作、麥は發芽佳良にして本月下旬出穂せり馬鈴薯は發育恢復
 し一般に佳良なりしも偽瓢蟲の發生例年より多し大豆の發育も例
 年と大差なく寧ろ良好なり其他蔬菜中茄子苗の如きは發育良好に
 して早きは本月末に於て植付を了せり最も温床苗は本月下旬に於
 て開花するものありたり、玉葱は前月まで發育遅れしも本月に至
 り大に恢復し稍良好なり其他甘藍は本月末に至り移植を見胡瓜の
 發育稍佳良なり。

○本年は例年に比し偽瓢蟲の發生多く就中郡内平
 内地方最も甚しきを以て驅除方督勵しつつあり其
 他例年大に見る稻の葉蛆は苗代に於て發生至て少

かまやばり大日本人造肥料株式會社

青森縣西部特約店

精過磷酸 水田肥料 各作物適合拾貳種

骨粉 水田磷酸 完全人造肥料

りんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

ごりんご肥料 三種

△本店△弘前市新寺町
 △支店△同市元寺町
 柁木座小路
町田新吉商店
 ●振替●東京二二三八〇番

●農産種子●病虫害驅除藥
 ●肥料溜大桶代用タダキの製造用
 ●酸土改良用
 ●撰種・豆腐・製造用
 ●摺白土問堅め用
 ●固形ニガリ
 ●安價
 ●鹽化マンガン
 ●石灰

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●石灰窒素は窒素肥料として有効にして割安害蟲驅除は御マケ分
 ●東京鈴鹿保家商店海外輸入肥料特約
 ●濃洲肥の硫酸アンモニアの硝石の大豆粕の硫酸加里の血粉の
 ●肉骨粉のトーマスその他各種
 ●農作物を三割
 ●以上増收せしむる補助肥料

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる

●病虫害驅除を兼たる
 ●空氣より電力採收の
 ●窒素肥料
 ●苗代ミズを全滅せしむる効果は使用者の等しく發達する處
 ●稲作や畑作へ使用され其肥効力は其一錐て下肥の五割に優りた
 ●りて證明さる